

2022年3月期 第2四半期 決算補足資料

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 決算概観（連結） | P.2 |
| 2. 第2四半期 業績のポイント | P.3 |
| 3. 第2四半期 業績の状況 | P.4 |
| 4. 第2四半期 業績と予想（連結） | P.5 |
| 5. 主要製品の状況 | P.6 |
| 6. 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況（連結） | P.7 |
| 7. 開発品一覧 | P.8～9 |
| 【参考資料】 | |
| 8. 損益計算書の概要（連結） | P.10～11 |
| 9. 貸借対照表の概要（連結） | P.12 |
| 10. 主な業績項目の推移（連結） | P.13 |
| 11. 杏林製薬資料 | P.14～17 |

2021年11月8日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社



■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2022年3月期 第2四半期 決算概観（連結）



(単位：百万円)	19年3月期 第2四半期	20年3月期 第2四半期	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	対前年 (%)	22年3月期 (予想)	対前年 (%)
売上高	50,360	48,299	47,735	49,102	n/a	102,600	n/a
営業利益	2,852	783	1,502	-68	-	3,300	-43.0%
経常利益	3,183	1,076	1,813	285	-84.2%	3,800	-41.1%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	2,217	834	2,118	121	-94.3%	2,700	-56.0%

22年3月期 第2四半期 連結業績（実績）

【売上高】 薬価改定及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、当社グループが重点領域とする呼吸器・耳鼻科等の市場が低調に推移したものの、積極的な普及促進活動により新薬群が伸長するとともに、一部後発医薬品企業の品質問題の影響により長期収載品の売り上げが増加し、新医薬品等（国内）は前年を上回る実績となりました。また後発医薬品の売り上げも増加し、全体の売上高は491億02百万円となりました。

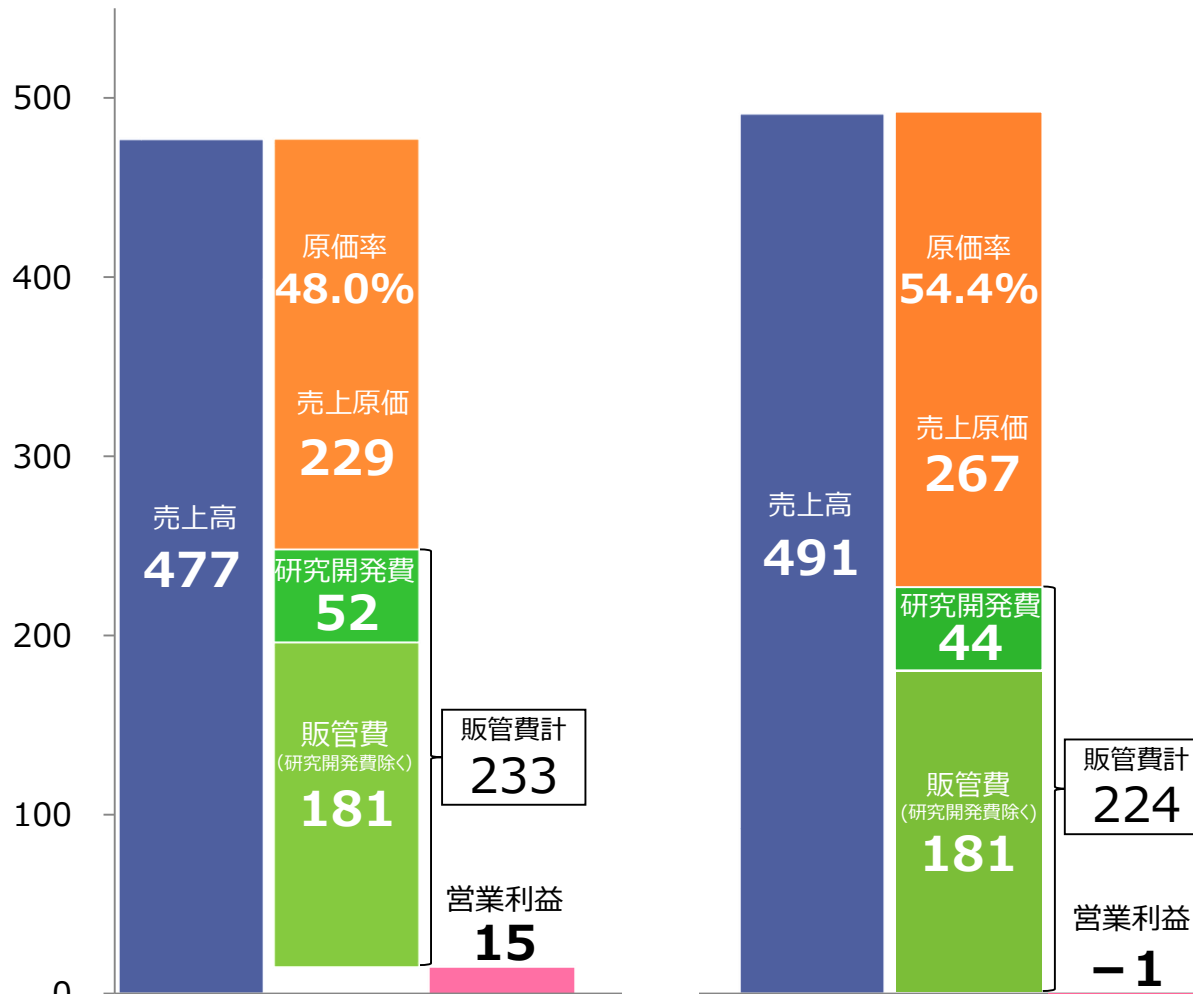
【利益】 売り上げは増加しましたが、売上原価率が上昇したことにより売上総利益は223億69百万円（前年同期248億円22百万円）と前年同期に対して減少しました。販売費及び一般管理費（研究開発費含む）は、慢性咳嗽治療薬の導入に関わる契約一時金を計上したものの、コスト削減等により、224億38百万円（前年同期233億円20百万円）と前年同期に対して減少しました。その結果、営業損失は68百万円、経常利益は2億85百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億21百万円となりました。

22年3月期 連結業績（予想）

現時点におきまして、2021年5月11日に公表した2022年3月期（通期）連結業績予想は変更しておりません。また2021年5月11日に公表した配当予想 年間52円/株につきましても変更はございません。

※ 2022年3月期 第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、前第2四半期連結累計期間の収益認識基準が異なることから、当第2四半期連結累計期間と比較しての増減額及び前年同期比（%）は記載しておりません。なお営業損失、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益への影響はありません。

(単位：億円)



21年3月期第2四半期

22年3月期第2四半期

【ポイント】

売上高は増加

売上原価率が上昇

【上昇要因】

- 薬価改定の影響（杏林製薬6%台）
- 後発医薬品の売上増加
- 棚卸資産の除却損等の増加

【低下要因】

- プロダクトミクス

売上総利益は減少

販管費は減少

- 研究開発費は減少
前年度、AKP-009導入に関わる契約一時金を計上
- 販管費（研究開発費除く）は横ばい
コスト削減
ゲーファピキサント導入に関わる契約一時金を計上

営業利益は減少

2022年3月期 第2四半期 業績の状況



(単位：億円)	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	対前年 (額)
売上高	477	491	n/a
新医薬品等(国内)	329	333	n/a
新医薬品(海外)	5	3	n/a
後発医薬品	144	155	n/a
営業利益	15	-1	-16
経常利益	18	3	-15
親会社株主に帰属する 四半期純利益	21	1	-20

※「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響額は売上高が611百万円減少し、販売費及び一般管理費が611百万円減少しましたが、営業損失、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益への影響はありません。

■売上高 **491億円** (対前年) (対予想) **(n/a) (+18)**

●新医薬品等(国内) **333億円** (対前年) (対予想) **(n/a) (+14)**

	21.3 (2Q)	⇒	22.3 (2Q)	(対前年)	(対予想)
・フルティフォーム	64	⇒	63	(-1)	(-3)
・デザレックス	18	⇒	26	(+8)	(-2)
・ベオーバ	38	⇒	43	(+5)	(+2)
・ラスビック	2	⇒	8	(+6)	(-3)
・ペンタサ	64	⇒	71	(+7)	(+11)
・ウリトス	16	⇒	7	(-9)	(+2)
・ナゾネックス	6	⇒	7	(+1)	(+2)
・キプレス	35	⇒	36	(+1)	(+6)
・ムコダイン	14	⇒	16	(+2)	(+4)

●新医薬品(海外) **3億円** (対前年) (対予想) **(n/a) (-2)**

前年度に計上した開発品の知的財産及び原薬等の譲渡による売上の反動減等

●後発医薬品 **155億円** (対前年) (対予想) **(n/a) (+7)**

モンテルカスト錠「KM」等 オーソライズド・ジェネリック (AG) 3製品の売上が増加、6月追補収載品の売上が寄与

■営業利益 **-1億円** (対前年) (対予想) **(-16) (+7)**

●原価率：54.4% (前年同期：48.0%)

【低下要因】プロダクトミクス
【上昇要因】薬価改定、後発医薬品の売上増加
棚卸資産の除却損等の増加

●研究開発費：44億円 (前年同期：52億円)

前年度、AKP-009導入に関わる契約一時金を計上

●販管費(研究開発費除く)：181億円 (前年同期：181億円)

販売費、人件費の減少、特許等使用料の増加 (ゲーファピキサント導入に関わる契約一時金)

■親会社株主に帰属する
四半期純利益 **1億円** (対前年) (対予想) **(-20) (+4)**

2022年3月期 第2四半期 業績と予想（連結）



(単位：百万円)	21年3月期 第2四半期 (実績)	22年3月期 第2四半期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	22年3月期 第2四半期 (予想)	対予想 (額)	21年3月期 (実績)	22年3月期 (予想)
	売上高	47,735	49,102	n/a	n/a	47,300	+1,802	102,904
新医薬品等（国内）	32,857	33,279	n/a	n/a	31,900	+1,379	69,735	68,600
新医薬品（海外）	527	342	n/a	n/a	500	-158	996	800
後発医薬品	14,351	15,481	n/a	n/a	14,800	+681	32,172	33,100
営業利益	1,502	-68	-1,570	-	-800	+732	5,786	3,300
経常利益	1,813	285	-1,527	-84.2%	-600	+885	6,447	3,800
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	2,118	121	-1,996	-94.3%	-300	+421	6,130	2,700

2022年3月期 第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、2022年3月期連結業績の第2四半期実績、第2四半期予想、通期予想は、当該「収益認識に関する会計基準」等を適用した数値となっております。

2022年3月期 第2四半期 主要製品の状況



(単位：億円)		20年3月期 第2四半期 (実績)	21年3月期 第2四半期 (実績)	22年3月期 第2四半期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	22年3月期 第2四半期 (予想)	対予想 (額)	21年3月期 (実績)	22年3月期 (予想)
新医薬品等 (国内)	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	67	64	63	-1	-1.2%	66	-3	133	139
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	0	18	26	+8	+42.9%	28	-2	57	72
	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	6	38	43	+5	+14.9%	41	+2	73	86
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	-	2	8	+6	+431.3%	11	-3	9	28
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	68	64	71	+7	+12.0%	60	+11	128	117
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	30	16	7	-9	-57.0%	5	+2	23	10
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	27	6	7	+1	+11.6%	5	+2	28	18
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	54	35	36	+1	+1.6%	30	+6	83	69
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	28	14	16	+2	+10.8%	12	+4	33	29
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	11	11	10	-1	-5.9%	11	-1	21	22
ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	6	10	10	0	-0.8%	10	0	20	21	
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	54	45	51	+6	+13.2%	40	+11	108	92
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	4	9	10	+1	+13.7%	10	0	38	35
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	-	3	4	+1	+18.1%	4	0	7	7

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況 (連結)

(単位：百万円)	19年3月期 第2四半期	20年3月期 第2四半期	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	対前年 (%)	21年3月期	22年3月期 (予想)
研究開発費	5,030	5,191	5,200	4,364	-16.1	9,703	9,200
設備投資	949	1,367	1,858	751	-59.6	4,307	4,500
減価償却費	1,395	1,566	1,716	1,831	+6.7	3,564	3,900

設備投資の詳細 (実績/予想)

(単位：億円)	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	21年3月期	22年3月期 (予想)
工場設備	13	3	31	33
管理・販売設備	2	1	3	5
研究用設備	3	3	9	7

開発品一覧① (2021年11月8日現在)

PhⅢ ~ 発売

開発段階		製品名/ 開発コード	適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
発売 (21年4月)	—	ジムソ膀胱内注入液50%/ KRP-116D	間質性膀胱炎	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	
申請中 (21年2月) MSD	—	ゲーファピキサントクエン酸塩 (一般名)	慢性咳嗽 (予定)	メルク社	選択的P2X3受容体拮抗薬であり、難治性または原因不明の慢性咳嗽への効果が期待される	21年4月 MSDより日本国内での 独占販売権を取得

POCプロジェクト (Ph I ~ Ph II)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph I (20年7月)	Ph I b/ II a (aTyr社:米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	aTyr社 (エイタイヤー)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体(NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	
	Ph I (21年4月:英国)	KRP-A218	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

開発品一覧② (2021年11月8日現在)

導入品の状況

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph II (19年12月) あすか製薬	—	AKP-009	前立腺肥大症	あすか製薬	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結 (20年9月)

※高用量での追加Ph I 試験を開始 (21年9月)

導出品の状況

開発段階	製品名/ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph I	FPR2作動薬 プログラム	BMS社 (プリストル・マイヤーズスクイブ)	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	BMS社とライセンス契約 (15年12月)
Ph I	KRP-203	Priothera社 (プリオセラ)	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡 (20年9月)
非臨床	感音難聴開発 化合物	Otonomy社 (オトミー)	感音難聴	自社	感音難聴を対象とした新規開発候補化合物	難聴等の耳科を対象とする全世界における開発、製造、販売に関する独占的権利を供与 (20年8月) 杏林製薬は日本における販売権を留保 Otonomy社 開発コード: OTO-6XX

損益計算書の概要 (連結) - ①

(単位：百万円)	21年3月期 第2四半期		22年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	対前年 (%)	対前年 (額)
売上高	47,735	100.0%	49,102	100.0%	n/a	n/a
新医薬品等 (国内)	32,857	68.8%	33,279	67.8%	n/a	n/a
新医薬品 (海外)	527	1.1%	342	0.7%	n/a	n/a
後発医薬品	14,351	30.1%	15,481	31.5%	n/a	n/a

<連結子会社及び持分法適用会社について>

連結子会社5社： 杏林製薬(株)
Kyorin Europe GmbH
ActivX Biosciences, Inc.
キョーリン リメディオ(株)
キョーリン製薬グループ工場(株)

持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

<当期のポイント>

(対前年)

■売上高 **49,102百万円** (n/a)

●新医薬品等 (国内) **33,279百万円** (n/a)

(億円)	21.3 (2Q)	⇒	22.3 (2Q)	
・フルティフォーム	64	⇒	63	(-1)
・デザレックス	18	⇒	26	(+8)
・ベオーバ	38	⇒	43	(+5)
・ラスビック	2	⇒	8	(+6)
・ペンタサ	64	⇒	71	(+7)
・ウリトス	16	⇒	7	(-9)
・ナゾネックス	6	⇒	7	(+1)
・キプレス	35	⇒	36	(+1)
・ムコダイン	14	⇒	16	(+2)

●新医薬品 (海外) **342百万円** (n/a)

・ 開発品の知的財産等の譲渡による売上の反動減等

●後発医薬品 **15,481百万円** (n/a)

・ モンテルカスト錠「KM」等、AG3製品の売上が増加
・ 6月追補収載品の売上が寄与

損益計算書の概要 (連結) - ②

(単位：百万円)	21年3月期 第2四半期		22年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	対前年 (%)	対前年 (額)
売上高	47,735	100.0%	49,102	100.0%	n/a	n/a
売上原価	22,913	48.0%	26,732	54.4%	n/a	n/a
売上総利益	24,822	52.0%	22,369	45.6%	n/a	n/a
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	23,320 (5,200)	48.9% (10.9%)	22,438 (4,364)	45.7% (8.9%)	n/a (-16.1%)	n/a (-835)
営業利益	1,502	3.1%	-68	-0.1%	-	-1,570
営業外収益	356	0.7%	402	0.8%	+12.9%	+45
営業外費用	45	0.1%	48	0.1%	+5.8%	+2
経常利益	1,813	3.8%	285	0.6%	-84.2%	-1,527
特別利益	1,074	2.3%	0	0.0%	-100.0%	-1,074
特別損失	12	0.0%	16	0.0%	+31.5%	+3
税金等調整前 当期純利益	2,874	6.0%	269	0.5%	-90.6%	-2,605
法人税・住民税 及び事業税	809	1.7%	136	0.3%	-83.1%	-672
法人税等調整額	-53	-0.1%	10	0.0%	-	+63
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,118	4.4%	121	0.2%	-94.3%	-1,996

<当期のポイント>

(対前年)

◆ **売上原価率：54.4%** (n/a)

【上昇要因】

- ・ 薬価改定の影響
- ・ 後発医薬品の売上増加
- ・ 棚卸資産の除却損等の増加

【低下要因】

- ・ プロダクトミクス

◆ **研究開発費率：8.9%** (n/a)

- ・ 52億円→44億円
- 前年度、KRP-009導入に関わる契約一時金を計上

◆ **販管費率 (研究開発費除く)：36.8%**
(n/a)

- ・ 181億円 (前年同期：181億円)
- 特許等使用料の増加：ゲーファピキサント導入に関わる契約一時金等
- 販売費および人件費の減少

■ **営業利益** -68百万円 (-1,570百万円)

■ **親会社株主に帰属
する四半期純利益** 121百万円 (-1,996百万円)

■ **配当 (中間)** 20円00銭

貸借対照表の概要 (連結)

(単位：百万円)	21年3月期末		21年9月期末		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	114,027	68.2%	112,811	68.6%	-1,215
現金及び預金	27,445		31,987		
受取手形及び売掛金	40,446		34,716		
有価証券	3,399	—	3,600	—	—
棚卸資産	38,568		38,235		
その他	4,166		4,271		
固定資産	53,099	31.8%	51,597	31.4%	-1,502
有形固定資産	23,896		23,198		
無形固定資産	3,785	—	3,489	—	—
投資その他	25,417		24,908		
資産合計	167,126	100.0%	164,408	100.0%	-2,717
流動負債	27,407	16.4%	27,754	16.9%	+347
支払手形及び買掛金	6,985	—	8,914	—	—
その他流動負債	20,422		18,840		
固定負債	15,057	9.0%	14,726	9.0%	-330
負債合計	42,464	25.4%	42,480	25.8%	+16
株主資本	120,339	72.0%	117,844	71.7%	-2,495
その他の包括利益累計額	4,322	2.6%	4,083	2.5%	-239
その他有価証券評価差額金	6,639		6,146		
為替換算調整勘定	-40	—	52	—	—
退職給付に係る調整累計額	-2,275		-2,115		
純資産合計	124,661	74.6%	121,927	74.2%	-2,734
負債及び純資産合計	167,126	100.0%	164,408	100.0%	-2,717

<当期のポイント> (対前期末)

■流動資産：1,215百万円減

- ・現金及び預金の増加 (+4,542百万円)
- ・受取手形及び売掛金の減少 (-5,729百万円)
- ・有価証券の増加 (+200百万円)
- ・棚卸資産の減少 (-333百万円)
- ・その他の増加 (+104百万円)

■固定資産：1,502百万円減

- ・有形固定資産の減少 (-697百万円)
- ・無形固定資産の減少 (-295百万円)
- ・投資その他の減少 (-508百万円)

■流動負債：347百万円増

- ・支払手形及び買掛金の増加 (+1,928百万円)
- ・その他流動負債の減少 (-1,581百万円)

■固定負債：330百万円減

主な業績項目の推移 (連結)

(単位：百万円)	20年3月期 第2四半期	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	21年3月期	22年3月期 (予想)
売上高	48,299	47,735	49,102	102,904	102,600
(海外売上)	(390)	(527)	(342)	(996)	(800)
売上原価	23,750	22,913	26,732	51,276	—
(売上原価率)	(49.2%)	(48.0%)	(54.4%)	(49.8%)	—
販売費及び一般管理費	23,765	23,320	22,438	45,841	—
(販管費率)	(49.2%)	(48.9%)	(45.7%)	(44.5%)	—
うち研究開発費	5,191	5,200	4,364	9,703	9,200
(研究開発費率)	(10.7%)	(10.9%)	(8.9%)	(9.4%)	(9.0%)
営業利益	783	1,502	-68	5,786	3,300
(営業利益率)	(1.6%)	(3.1%)	(-0.1%)	(5.6%)	(3.2%)
経常利益	1,076	1,813	285	6,447	3,800
(経常利益率)	(2.2%)	(3.8%)	(0.6%)	(6.3%)	(3.7%)
四半期(当期)純利益	834	2,118	121	6,130	2,700
(四半期(当期)純利益率)	(1.7%)	(4.4%)	(0.2%)	(6.0%)	(2.6%)
一株当たり利益	14.56円	36.98円	2.12円	106.99円	47.12円
資本金	700	700	700	700	—
総資産	165,895	169,789	164,408	167,126	—
純資産	119,516	123,400	121,927	124,661	—
一株当たり純資産	2,086.31円	2,153.51円	2,127.81円	2,175.52円	—
自己資本利益率	0.7%	1.7%	0.1%	5.0%	—
自己資本比率	72.0%	72.7%	74.2%	74.6%	—
人員	2,292人	2,282人	2,252人	2,243人	—
設備投資	1,367	1,858	751	4,307	4,500
減価償却費	1,566	1,716	1,831	3,564	3,900

2022年3月期 第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、2022年3月期連結業績の第2四半期実績、通期予想は、当該「収益認識に関する会計基準」等を適用した数値となっております。

損益計算書の概要：杏林製薬－①

(単位：百万円)	21年3月期 第2四半期		22年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	対前年 (%)	対前年 (額)
売上高	41,116	100.0%	42,961	100.0%	n/a	n/a
新医薬品等（国内）	31,813	77.4%	32,537	75.7%	n/a	n/a
新医薬品（海外）	433	1.1%	251	0.6%	n/a	n/a
後発医薬品	8,869	21.6%	10,172	23.7%	n/a	n/a

<当期のポイント>		(対前年)
■売上高	42,961百万円	(n/a)
●新医薬品等（国内）	32,537百万円	(n/a)
(億円)		
	21.3 (2Q)	22.3 (2Q)
・フルティフォーム	64 ⇒	63 (-1)
・デザレックス	18 ⇒	26 (+8)
・ベオーバ	38 ⇒	43 (+5)
・ラスビック	2 ⇒	8 (+6)
・ペンタサ	64 ⇒	71 (+7)
・ウリトス	16 ⇒	7 (-9)
・ナゾネックス	6 ⇒	7 (+1)
・キプレス	35 ⇒	36 (+1)
・ムコダイン	14 ⇒	16 (+2)
●新医薬品（海外）	251百万円	(n/a)
・ 開発品の知的財産等の譲渡による売上の反動減等		
●後発医薬品	10,172百万円	(n/a)
・ モンテルカスト錠「KM」等 AG3製品の売上が増加		

損益計算書の概要：杏林製薬－②

(単位：百万円)	21年3月期 第2四半期		22年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	対前年 (%)	対前年 (額)
売上高	41,116	100.0%	42,961	100.0%	n/a	n/a
売上原価	19,773	48.1%	23,277	54.2%	n/a	n/a
売上総利益	21,343	51.9%	19,683	45.8%	n/a	n/a
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	21,021 (4,687)	51.1% (11.4%)	20,509 (3,782)	47.7% (8.8%)	n/a (-19.3%)	n/a (-905)
営業利益	321	0.8%	-825	-1.9%	—	-1,147
営業外収益	643	1.6%	585	1.4%	-8.9%	-57
営業外費用	28	0.1%	29	0.1%	+2.3%	+0
経常利益	936	2.3%	-269	-0.6%	—	-1,205
特別利益	1,073	2.6%	0	0.0%	-100.0%	-1,073
特別損失	4	0.0%	9	0.0%	+90.2%	+4
税金等調整前 当期純利益	2,005	4.9%	-278	-0.6%	—	-2,283
法人税・住民税 及び事業税	604	1.5%	-28	-0.1%	—	-632
法人税等調整額	—	—	—	—	—	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,400	3.4%	-249	-0.6%	—	-1,650

<当期のポイント>

(対前年)

◆ **売上原価率：54.2%** (n/a)

- ・薬価改定の影響
- ・後発医薬品の売上増加
- ・棚卸資産の除却損等の増加

◆ **研究開発費率：8.8%** (n/a)

- ・47億円→38億円
- 前年度、AKP-009導入に関わる契約一時金を計上

◆ **販管費率(研究開発費除く)：38.9%**
(n/a)

- ・167億円(前年同期：163億円)
- 特許等使用料の増加：ゲーファピキサント導入に関わる契約一時金等
- 販売費および人件費の減少

■ **営業利益** -825百万円 (-1,147百万円)

■ **四半期純利益** -249百万円 (-1,650百万円)

貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位：百万円)	21年3月期末		21年9月期末		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	119,598	76.4%	119,314	76.8%	-284
現金及び預金	16,983		23,691		
売掛金	36,182		30,400		
有価証券	3,399	—	3,600	—	—
棚卸資産	29,609		28,310		
その他	33,422		33,311		
固定資産	37,029	23.6%	35,999	23.2%	-1,029
有形固定資産	7,213		7,175		
無形固定資産	3,080	—	2,801	—	—
投資その他	26,734		26,022		
資産合計	156,628	100.0%	155,314	100.0%	-1,314
流動負債	23,789	15.2%	25,911	16.7%	+2,122
買掛金	6,597		9,877		
その他流動負債	17,192	—	16,034	—	—
固定負債	12,417	7.9%	12,196	7.9%	-220
負債合計	36,207	23.1%	38,108	24.5%	+1,901
株主資本	113,848	72.7%	111,147	71.6%	-2,700
評価・換算差額等	6,572	4.2%	6,057	3.9%	-514
純資産合計	120,420	76.9%	117,205	75.5%	-3,215
負債及び純資産合計	156,628	100.0%	155,314	100.0%	-1,314

<当期のポイント>

(対前期末)

■ 流動資産：284百万円減

- ・ 現金及び預金の増加 (+6,708百万円)
- ・ 売掛金の減少 (-5,782百万円)
- ・ 有価証券の増加 (+200百万円)
- ・ 棚卸資産の減少 (-1,299百万円)
- ・ その他の減少 (-111百万円)

■ 固定資産：1,029百万円減

- ・ 有形固定資産の減少 (-37百万円)
- ・ 無形固定資産の減少 (-279百万円)
- ・ 投資その他の減少 (-712百万円)

■ 流動負債：2,122百万円増

- ・ 買掛金の増加 (+3,279百万円)
- ・ その他の減少 (-1,157百万円)

■ 固定負債：220百万円減

主な業績項目の推移：杏林製薬

(単位：百万円)	20年3月期 第2四半期	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	21年3期	22年3月期 (予想)
売上高	41,667	41,116	42,961	89,674	89,800
（海外売上）	(293)	(433)	(251)	(793)	(600)
売上原価	20,638	19,773	23,277	44,922	—
（売上原価率）	(49.5%)	(48.1%)	(54.2%)	(50.1%)	—
販売費及び一般管理費	21,386	21,021	20,509	41,190	—
（販管費率）	(51.3%)	(51.1%)	(47.7%)	(45.9%)	—
うち研究開発費	4,717	4,687	3,782	8,719	7,800
（研究開発費率）	(11.3%)	(11.4%)	(8.8%)	(9.7%)	(8.7%)
営業利益	-357	321	-825	3,561	1,300
（営業利益率）	(-0.9%)	(0.8%)	(-1.9%)	(4.0%)	(1.4%)
経常利益	243	936	-269	4,546	2,000
（経常利益率）	(0.6%)	(2.3%)	(-0.6%)	(5.1%)	(2.2%)
四半期（当期）純利益	137	1,400	-249	4,814	1,500
（四半期（当期）純利益率）	(0.3%)	(3.4%)	(-0.6%)	(5.4%)	(1.7%)
一株当たり利益	1.85円	18.86円	-3.37円	64.82円	—
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	—
総資産	156,318	160,574	155,314	156,628	—
純資産	116,975	119,891	117,205	120,420	—
一株当たり純資産	1,575.04円	1,614.30円	1,578.14円	1,621.43円	—
自己資本利益率	0.1%	1.2%	-0.2%	4.0%	—
自己資本比率	74.8%	74.7%	75.5%	76.9%	—
人員	1,537人	1,504人	1,472人	1,471人	—
設備投資	185	207	342	732	700
減価償却費	679	684	722	1,391	1,500

2022年3月期 第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、2022年3月期連結業績の第2四半期実績、通期予想は、当該「収益認識に関する会計基準」等を適用した数値となっております。